

研究課題名	炎症性腸疾患における栄養状態についての検討
研究責任者名	東広島医療センター 消化器内科 医長 楠 龍策
研究期間	倫理審査承認日～ 2029年3月31日
対象者	2000年1月1日から2029年3月31日の間に、東広島医療センターにおいて、大腸内視鏡検査をうける、寛解期炎症性腸疾患の患者さん。
意義・目的	炎症性腸疾患(Inflammatory bowel disease: IBD)は、おもに若年で発症し再燃と寛解を繰り返す慢性疾患で、潰瘍性大腸炎とクローン病に大別され、近年我が国でも急速に患者数が増加しています。IBDの活動期には下痢や腹痛などで栄養状態が悪化し、その結果、治療効果、手術率、死亡率などのIBD予後を悪化することが報告されています。そのようなIBDに対して、近年多数の新規薬剤が開発され、下痢などの症状のない寛解状態を長期に維持することができるようになっただけでなく、内視鏡でみても正常と同じまで改善する粘膜治癒を得ることが可能となりました。その内視鏡的粘膜治癒は寛解期のIBDの予後を改善することが明らかとなり新たな治療目標となっています。一方で、寛解期のIBDにおける栄養状態についての報告は少なく、栄養状態と内視鏡的粘膜治癒との関連や、栄養状態と長期的な予後の関連はいまだに明らかになっていません。そこで、今回の検討の目的は、寛解期のIBDにおける内視鏡的粘膜治癒と栄養状態を調査し、栄養状態が長期予後に与える影響を明らかにすることです。今回の検討により、寛解期IBDにおける栄養状態と長期予後との関連が明らかになれば、栄養状態がIBD診療における新たな治療目標となり、患者さんの長期予後を改善する一助となる可能性があります。
方法	大腸内視鏡検査後に、IBDの再燃がないか前向きに調査を行います。通常の診療の範囲で得られるデータのみで研究を行いますので、患者さんの体の負担はありません。今回の研究で収集するデータは、年齢、性別、身長、体重、生活習慣、治療薬の種類、血液検査、内視鏡検査、体組成検査などです。また、アンケート用紙を用いて、患者さんの生活の質(Quality of life: QOL)や食事・運動習慣に関する調査を行います。
試料・情報の管理責任者	東広島医療センター 消化器内科 楠 龍策
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ窓口	東広島医療センター消化器内科 医長 楠 龍策 住所：〒734-0041 広島県東広島市西条町寺家 513 電話：082-423-2176(代表)